

人工呼吸器装着中である筋萎縮性側索硬化症患者の

聞けなかった思いを知る

～半構造化インタビューを通して考察する～

坂本由紀恵* 池田紀子 伊田絵理香 神農祐子

国立病院機構鳥取医療センター看護部 1 病棟

Clarifying the feelings that ALS patients using a respirator were unable to express previously

-Discussion through semi-structured interviews-

Yukie Sakamoto,* Noriko Ikeda, Erika Ida, Yuko Shino

1st Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

*Correspondence: byoutou1@tottori-iryu.hosp.go.jp

要旨

A 病棟で療養中である筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者で人工呼吸器装着者のために、患者の思いを十分に傾聴する時間を確保できていない現状がある。そのため、看護師の一方的なケアとなってしまう、患者個々の思いを配慮した関わりが十分にできていない。A 病棟療養中の ALS 患者で人工呼吸器装着者 3 名に、看護師の関わりに対する思いを知るために半構造化インタビューを行った。その結果、看護師の関わりで良かったこと嬉しかったことでは、訴えの確認行為、自分のことをよく知ってくれている、生活の中の楽しみという 3 つのカテゴリを抽出した。困ったこと不快なことでは、確実なケアが受けられないことへの不信、コミュニケーションの確保ができない、ぞんざいな対応という 3 つのカテゴリを抽出した。これにより、日頃聞けなかった患者の思いを知ることができ、患者の話をゆっくり傾聴する時間を設けることが重要であることが改めて認識された。鳥取臨床科学 7(1), 6-11, 2016

Abstract

Ward A has patients who are under treatment for amyotrophic lateral sclerosis (ALS). Because they are using a respirator, we have not been able to ensure a sufficient amount of time to listen to their feelings. Therefore, nursing care is being provided based only on the ideas of nurses, and interaction with these patients has not been fully carried out in a manner facilitating the consideration of their feelings. Against this background, we conducted semi-structured interviews with 3 ALS patients who were under treatment on Ward A, in order to clarify their feelings about nurses' interaction with them. As a result, concerning positive feelings about nurses' interaction, the following 3 categories were extracted: 1) nurses' confirmation of patients' complaints, 2) nurses' good understanding of patients, and 3) enjoyment of life. Concerning negative feelings about nurses' interaction, the following 3 categories were extracted: 1) a sense of mistrust because of inaccessible reliable treatment, 2) being unable to communicate with nurses, and 3) nurses' negligent ways to

address patients. Thus, we were able to clarify the feelings that ALS patients had previously been unable to express, and re-recognized the importance of arranging opportunities to intently listen to such patients. Tottori J. Clin. Res. 7(1), 6-11, 2016

Key Words: 筋萎縮性側索硬化症（ALS），人工呼吸器装着，患者の思い，半構造化インタビュー； amyotrophic lateral sclerosis (ALS), respirator, patients' feelings, semi-structured interview

はじめに

筋萎縮性側索硬化症（以下 ALS のとする）は、運動神経系が選択的に障害される原因不明の神経変性疾患である。主症状は筋力低下・筋委縮であり、感覚神経や自律神経は侵されない特徴を持つ。進行に伴い呼吸筋麻痺が起こり、人工呼吸器を装着した療養生活を余儀なくされる。

神経筋難病病棟である A 病棟では、入院患者数の 50% が人工呼吸器を装着し、療養生活を送っている。人工呼吸器を装着している場合、モニター管理などによる心身の拘束度が高く、また全身の筋力低下が進行し感覚があるのに自分の思い通りに身体を動かすことが困難といった病態の特徴から、療養生活において特にストレスを感じやすいと言われている。そのため、患者が療養生活を送る上で、快適で満足できるような看護ケアの実施が重要といえる。深井¹⁾は、「医療に対する患者満足度を知ることは、医療者側にとっては医療の質の保証と改善のための有効な指標であろう。」と述べている。A 病棟において人工呼吸器装着患者とコミュニケーションをとる際、大半は文字盤を活用して関わっている。文字盤を使用しての会話は、患者が看護師に今行ってほしいことや、身体の不調の訴えなど、療養生活を身体的に安楽に送るための要望が多い。また看護師は、今必要とする訴えを聞くことに留まっていて、患者の思いを傾聴するための時間を十分に確保できていないのが現状である。よって、私たちが提供している関わりに対して、患者はどのくらい満足しているのか不明であるし、看護師の一方的なケアとなってしまう、患者個々の思いを配慮した関わりが十分にできていないのではと感じて来た。

今回、人工呼吸器を装着した ALS 患者を対象に、看護師の関わりに対する思いをインタビューを通して分析したのでここに報告する。

用語の定義

看護師の関わり：本研究では、看護ケアを含む看護師が患者に提供する全ての援助とする。

ナースコールを合わせる：本研究の対象患者全員が改良ナースコール（赤外線センサー仕様）を使用しており、看護師は退床する際に患者がナースコールを鳴らすことができるか確認する行為のこと。

I. 研究方法

1. 研究目的

人工呼吸器を装着した ALS 患者を対象に、看護師の関わりに対する思いをインタビューを通して明らかにし、今後の看護に活かす。

2. 研究対象

人工呼吸器を装着中であり、文字盤により会話が可能な厚生労働省 ALS の重症分類 5 度に分類される ALS 患者 3 名（表 1）。

表 1.

3. 研究期間

平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月。

4. データの収集ならびに分析方法

1) 研究対象者に研究内容の説明を文書及び